

## 2018年度 公益社団法人鎌倉青年会議所 理事長報告

第54代理事長 樋渡 悠浩

「真の社会人となろう」本年はこのテーマのもと一年間運動を展開してまいりました。真の社会人とはなんなのでしょう。それは、学校を卒業し、働いて収入を得ただけで呼ばれる称号ではありません。現代に起きている問題の中にはそのような価値観では解決しえない問題が多く存在するのです。真の社会人とは働いて収入を得ているものであることはもちろんのこと、それに加えて、地域とつながり、時に頼られ、さらには地域と人をつなぎ合わせていける、そんな人のことなのだと思います。そして、あなたがいるからこのまちの未来は明るい、そういわれる人こそが真の社会人なのだと思います。

そしてその為にも、我々会員はこのまちの現状を正確に描く努力をしなければならないのです。本年度まちづくり委員会にはこのまちを知るために、2月にまちの風土を見つめ直し再認識する為の事業としてこのまちの文化のひとつである陶芸について実際に手を動かし作ることで学びました。そして5月には本年度で50回目となる慈善茶会を開催していただきました、そしてそれに伴い第50回慈善茶会記念式典を開催していただきました、本年に至るまで、数多の会員の汗でつくられてきたこの事業のひとつの節目を無事迎えることが出来ました。そして11月には、まちづくりの本質である、このまちの問題を深く議論し勇気をもって切り込み、深沢の再開発地域にて、未来を生きる子供たちのための事業を行うことが出来ました。

あなたがいるからこのまちの未来は明るい、そういわれる人物がこのまちにどれだけいるのでしょうか。我々はまちづくりを考え実践し、その中で自らがこのまちから必要とされる存在となるべく自己の修養に励む組織です。そしてそのことに誇りを持ち広く伝えていく必要があるのだと思います。本年度会員拡大委員会では、4月に渡辺元智氏をお招きし「魅力ある組織は魅力ある人がつくる」というテーマにてご講演をいただきました。6月には3LOM合同例会として「バブルスポーツ」を異なる地域の仲間と共に行うことで交流を深め、改めてこのまちを知る機会となりました。10月には、このまちで活躍する青年たちと共に市民の皆様と共に、それぞれが考えるまちの未来を共有する時間を得ることが出来ました。そしてこれらの事業を行うと共に愚直な努力のもと、7名の会員拡大を成し遂げて頂きました。

「早く行きたければひとりで行け遠くへ行きたければ皆で行け」このまちの未来を明るくするという遠い目標にたどり着くためには多くの人と手を取り合って進まなけ

ればなりません。そのためにも広報（PR）という言葉が本来持っている、社会と人をつないでいくこと、という意味をよく理解し進んでいく必要があります。本年度、広報交流委員会では3月にメモリアルデーを開催していただき、会の誕生日を祝うと共にOBとの交流を深めて頂きました。8月例会においては、多くの市民を招き、由比ガ浜海岸にて灯籠をつくり、このまちの未来を皆と共有する事業を行って頂きました。また日々のHPやSNSの更新を頻繁に行うことで当会議所と地域社会とのつながりを深めて頂きました。そして、本年は委員会が先頭に立ちこのまちのイベントに積極的に参加し交流をするという広報の本質を捉えた新たな試みを行って頂きました。また入会が浅いメンバーのみでつくる事業として、社会人として身に着けるべきマナーと、社会人として必要な知識である防災についての二つの事業をご担当頂きました。

我々の運動をしっかりと行って行く為には強力な組織運営が不可欠です。本年、総務渉外委員会では、1月には総会・賀詞交歓会、7月には臨時総会・次年度を祝う会を厳粛に、そして盛大に行っていただき、9月にはより広い視野で青年会議所運動を感じられるブロック大会への参加、そして12月には臨時総会と卒業生を送る会、鎌倉商工会議所青年部との交流会など、多くの事業を行って頂きました。そして本年も出向者に対し積極的に支援をされることで、当会議所の運動の屋台骨となって頂きました。また財務管理をしっかりと行い、数多くの会議を設営していただくことで、会の運動を支えて頂きました。

「我々青年はあらゆる機会をとらえて互に団結し自らの修養に努めなければならぬと信ずる。」これは日本最初の青年会議所である東京青年会議所の設立趣意書の一文です。多くの事業を仲間と共に切磋琢磨し駆け抜けてきたこの一年は、正にこの一文の通りだったのではないのでしょうか。この駆け抜けてきた時間こそが我々を成長させ、そして、あなたがいるからこのまちの未来は明るいといわれる真の社会人へと成長する一年となったであろうと確信いたしております。

最後となりますが、私と共に会の運営に携わっていただいた、日向副理事長、牧田副理事長、そして誰より私と共に時間を過ごしていただき支えて頂いた女房役である今村専務、そしてこの一年を共に駆け抜けてくれたすべてのメンバー並びにお力添えを頂きましたすべての皆様に感謝を申し上げ、2018年度の総括とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

公益社団法人鎌倉青年会議所

2018年度専務理事

今村広太郎

## 2018年度 専務理事報告

### 【本 文】

私は本年度、樋渡悠浩理事長の下、専務理事という大変貴重な経験をさせていただく機会を仰せつかりました。樋渡理事長の掲げるテーマであります「真の社会人となろう」を常に胸に刻みつつ、この1年間主には「総務渉外委員会の担当理事」「円滑な会務遂行の為の連絡調整」、そして「対外的な窓口業務」等を任務として活動して参りました。

体制がスタートした1月より京都会議をはじめ、県内20LOMの新年式典等に対して理事長に随行させていただき、各地LOMの運動発信を文字通り肌で体感すると共に、一方では当会議所の1月例会として、定時総会・新年式典・賀詞交歓会として本年度体制を公に発信する機会を設営いたしました。年間業務としては、各月に開催する諸会議の設営を行いました。それと同時に日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会への出向者支援として、神奈川ブロック協議会の全体会議をはじめ、会長公式訪問、そしてブロック大会等多くの対外事業に対する橋渡し役として連絡調整に努めました。7月には110回臨時総会並びに次年度理事長を祝う会を設営させていただき、本年度と、これからスタートする次年度への体制移行の準備起点となる例会を無事に執り行うことができました。そして私自身も神奈川ブロックの会議体であります、会員会議所連絡会議へ出向させていただき、より多くの仲間との出会いと、いつもと違う視座、視点を学ばせていただきました。

この1年間、人と人、人と機会の「橋渡し役」として決して表の記録には残らない数々の経験をさせていただきました。そのどれもが華々しく輝かしい日々ばかりではありませんでしたが、今では私の血となり肉となっているのを体感しております。青年会議所は、人と人が織り成している組織であり、それが伝統となり魅力であると感じた1年間でした。

結びとなりますが、様々な面でご協力をいただきました牧田芳明副理事長、日向智則副理事長、そして厳しくも温かくご指導を賜りました大崎厚郎直前理事長兼監事、杉浦大介監事。この一年波乱続きの中、太平洋のように大きな心で前向きに活動していただい

た村山大輔副委員長と委員会メンバーの皆様。担当副理事長時代から数えて、JCの魅力や辛さ、そして物事を成し遂げた後の「絶景」をいつも見せてくれていた樋渡理事長には心からの感謝を申し上げ、専務理事報告と代えさせていただきます。

1年間本当に有難うございました。

# まちづくり委員会

- 委員長 名：潮見 雅利
- 副委員長 名：竹村 眞
- 委員 名：岩本 和憲、大森 啓田、田中 健雄、永田 磨梨奈、春山 真寛、  
松原 洋平、山上 亮

## 1) 事業報告

### (I) まちの風土を見つめ直し再認識する為の事業の開催

- (a) 内 容：体験型事業の開催
- (b) 時 期：2018年 2月 6日 (火)
- (c) 開催場所：井上蒲鉾店 鎌倉駅前店 3階
- (c) 対 象：正会員27名

### (II) 第50回慈善茶会の開催

- (a) 内 容：第50回慈善茶会の開催
- (b) 時 期：2018年 5月19日 (土)
- (c) 開催場所：【茶会】大仏殿高德院  
【エクスカージョン】鎌倉能舞台、長谷別邸
- (d) 対 象：正会員38名、OB30名、お客様524名、来訪JC72名  
※うち、鎌倉能舞台来場者約60名、長谷別邸来場者約180名  
茶道裏千家淡交会鎌倉支部20名、茶道裏千家淡交会鎌倉青年部30名  
鎌倉女子大学茶道部11名、県立鎌倉高校茶道部5名  
県立七里ガ浜高校茶道部6名、県立深沢高校茶道部8名  
鎌倉ユネスコ協会20名、こばとナーサリー21名

### (III) 50年間のご協力に感謝し、今後の発展の礎とする為の事業の開催

- (a) 内 容：第50回慈善茶会の記念祝賀会の開催
- (b) 時 期：2018年 5月19日 (土)
- (c) 開催場所：鎌倉プリンスホテル バンケットホール七里ガ浜
- (d) 対 象：正会員18名、OB29名、来賓68名

### (IV) まちと人との関わりを深めるきっかけとなる場を創る事業の開催

- (a) 内 容：市民参加の体験型事業の開催
- (b) 時 期：2018年11月23日 (金)
- (c) 開催場所：富士塚小学校体育館、深沢地域整備事業用地
- (d) 対 象：正会員23名、保護者30名、小学生33名

## 2) 委員会報告

本年度のまちづくり委員会では、まちの発展のためには会員自身が鎌倉の風土を再認識し、広い視野を持って考える力を身に付けることで知識見識を深められる人材になることが必要で、その人材が学び考えた結果得た自らの認識を発信することが、まちと人、人と人との深く関わるきっかけを創り出す一助になると考え、一年間活動しました。

まちの風土を見つめ直し再認識する為の事業の開催では、喜中窯 河村喜史先輩を講師として迎え、慈善茶会で使用する茶碗を成形し、茶碗の側面にまちのシンボルを表す言葉を刻むことで、鎌倉のまちについて広く知識を学び、見識を深めました。次に、第50回慈善茶会では、テーマを「まちと人の軌跡をたどり、想いを紡ぐ」とし、茶会を通じて、鎌倉のまちと人のつながりの積み重ねによって構築される風土を、このまちに住み暮らしまちづくり運動を行っている私たちの視点から、市民の皆様を知っていただくための場を創り発信し、まちとお客様の関係性をより深めました。当日は茶道裏千家千宗室御家元様によるお献茶式をはじめ関係諸団体による呈茶、そして本年の特色として、エクスカーションと称して鎌倉能舞台と長谷別邸において鎌倉のまちの文化の発信を行いました。そして、50年間のご協力に感謝し、今後の発展の礎とする為の事業として、第50回慈善茶会記念祝賀会をプリンスホテルにて実施しました。当事業においては、慈善茶会の歴史を振り返ることで、鎌倉青年会議所が慈善茶会に込めた想いを来賓の方に知っていただき、今後の慈善茶会が更なる発展を遂げるための礎とする場を創り出すことを目的としました。最後に、まちと人との関わりを深めるきっかけとなる場を創る事業では、注目が高まっている「深沢地域整備事業用地」の現状を知ってもらうこと、そして、将来深沢地区がどのように変わっていくのかということを考えるための判断材料やきっかけを市民に提供することを目的としました。当日は深沢地域整備事業用地へのウォークラリーとクイズによって理解を深め、その後ペーパークラフトを利用して将来の深沢のまちのジオラマを実際に作成してもらいました。

当委員会の活動によって、会員自身がまちの姿を鎌倉の風土から学び、広い視野を持って考えることで、今年度当会議所のテーマである「真の社会人となろう」の実現に近付くことができ、学び考えることで得られた自らの認識を市民に発信していくことで、まちと人、人と人との深く関わるきっかけを創り出すことができたと考えています。

最後になりますが、初理事にも関わらずまちづくり委員長という大役を任せて下さった樋渡理事長、毎日適切なお指導をいただきました牧田副理事長、事業をより良くするために的確な意見をいただきました正副役員と監事のみなさま、そして、より楽しく為になる事業にするためにたくさんのヒントをくださるとともに、委員会の運営にご協力いただき委員会に活気をもたらしてくれた委員会メンバーの皆様、そして鎌倉青年会議所のメンバー皆様に深く御礼を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。1年間本当にありがとうございました。

# 会員拡大委員会

- 委員長名：米澤 寿人
- 副委員長名：松永 充広
- 委員名：斉藤 正朗、西崎 肇、根本 紗央里、橋本 航季、宮沢 輝、メタ バラッツ  
成瀬 英治朗

## 1) 事業報告

### (I) 会員拡大の実施

- (a) 内容：会員拡大活動
- (b) 時期：2018年 1月～12月
- (c) 開催場所：鎌倉市内及び近隣各所
- (c) 対象：新入会員7名

### (II) 魅力ある人を育てる考え方を多くの市民と共に学び、共感する事業の実施

- (a) 内容：4月例会「横浜高等学校硬式野球部終身名誉監督 渡辺元智氏講演会」  
～渡辺監督流 人の育て方～
- (b) 時期：2018年 4月17日(火)
- (c) 開催場所：第一部 鎌倉芸術館 小ホール  
第二部 チャイナダイニング千馬
- (d) 対象：正会員27名、OB14名、対象者33名、市民244名

### (III) 隣接する仲間と共に学び、交流する事業の実施

- (a) 内容：6月3日LOM合同例会「バブル de Crash Party」
- (b) 時期：2018年 6月16日(土)
- (c) 開催場所：第一部 湘南インドア球's倶楽部  
第二部 REAL江ノ島店
- (d) 対象：公益社団法人 鎌倉青年会議所 19名 ゲスト7名  
一般社団法人 逗子葉山青年会議所 9名  
一般社団法人 藤沢青年会議所 22名

### (IV) このまちを共に語り、認識する事業の実施

- (a) 内容：10月例会 私達が考える鎌倉はこうだ！！～地元で活躍する青年が熱く語る～
- (b) 時期：2018年10月16日(火)
- (c) 開催場所：第一部 鎌倉商工会議所 地下ホール  
第二部 お好み焼き 津久井
- (d) 対象：正会員24名、対象者6名、市民49名

## 2) 委員会報告

本年度の会員拡大委員会では、まちに関わる若者達で運営する鎌倉青年会議所のメンバーを増やす為には、まず若者がまちに対して関心を持ってもらう必要があると考えました。例会ではまちについて発信する第一部と対象者と交流を深める為の第二部で複数の事業を構築させて頂きました。

会員拡大は通年で発掘、勧誘、入会のサイクルを対象者に対し繰り返し行いました。入会の浅いメンバーを中心に聞き取りを行う等で情報を集め、メンバー間でメーリングリストやSNSを活用して対象者の情報を共有し様々な接点を活かして活動を行いました。また、入会案内等の資料を活用して丁寧なオリエンテーションを行った事で7名の新入会員を迎える事が出来ました。

4月例会では、横浜高校硬式野球部終身名誉監督の渡辺元智氏に自らの経験に基づいた講演会を行って頂きました。メンバーが人の育て方を学ぶ機会となったと同時に、多くの市民や対象者へ当会議所の存在をアピールする事が出来ました。

6月例会では、普段は関わる事の少ない逗子葉山青年会議所や藤沢青年会議所のメンバーとスポーツを通じて交流しつつ、それぞれのまちや拡大について話す事で外からの目線で新たな気付きを得る機会となりました。

10月例会では、鎌倉で活躍する6人の青年にそれぞれが考える鎌倉をパネルディスカッション形式で話して頂き、後にメンバーや参加者を交えてディスカッションを行い皆でまちについて考える時間を共有する機会となりました。

拡大活動は青年会議所における唯一の継続事業だと言われます。当会議所が今後も拡大活動を行っていく為にも、上記の活動を通じて得た拡大対象者情報を途切れる事無く次年度へと引き継いで行く事が最後の務めと考えます。

最後に私事とはなりますが、未熟な私に委員長を任せて下さいました樋渡理事長、いつも時間を作りご指導下さいました日向副理事長、どんな時も支えてくれた松永副委員長をはじめとする委員会メンバーの皆様と共に1年間活動できた事、とても光栄に思います。また、当委員会のあらゆる活動にご協力いただきました鎌倉青年会議所のメンバーの皆様に感謝申し上げ、委員会報告とさせて頂きます。

1年間、本当にありがとうございました。

# 広報交流委員会

- 委員長名：二見 宏史
- 副委員長名：長野 トーマスマコト
- 委員名：大西 広朗、片根 竜哉、御代川 太

## 1) 事業報告

### (Ⅰ) 青年会議所を地域の皆様に広報する事業の実施

(a) 内 容：地域活動への参加並びにPR、鎌倉青年会議所活動の情報発信、ホームページ・SNSの管理・運営

(b) 時 期：2018年 1月～12月

### (Ⅱ) 交流会の開催

(a) 内 容：メモリアルデーの開催

(b) 時 期：2018年 3月

(c) 開催場所：二楽荘

(d) 対 象：会員30名、OB23名

### (Ⅲ) 入会の浅い会員が中心となつて行う会員交流会の開催

(a) 内 容：交流会の開催

(b) 時 期：2018年 6月、11月

### (Ⅳ) 地域の皆様を招いた広報交流事業の開催

(a) 内 容：体験型交流会の開催

(b) 時 期：2018年 8月

(c) 開催場所：由比ヶ浜海岸

(d) 対 象：会員27名、市民45組

## 2) 委員会報告

本年度、広報交流委員会は「明るい豊かな社会の実現」の一助のため、当会議所と地域の皆様との連携が強化し、入会の浅い会員と経験のある会員間の交流や諸先輩方との交流を深めるべく活動をして参りました。

青年会議所を地域の皆様に広報する事業では、これまで継続的に行っていたホームページやSNSによる広くわかりやすい情報発信を行いに加え、あらたな手法による広報として当会議所の会員が市民が主催する事業に参加することで地域の皆様と交流し当会議所の

広報に結びました。

交流会では、当会議所の歴史を振り返り、OB諸氏に感謝をし、ともに当会議所の設立を祝いました。この事業により現役会員とOBとの双方向的な交流が促進され、当会議所の歴史を知り、世代を越える交流をすることで、現役会員が社会人として成長することに繋がったと考えます。

入会の浅い会員が中心となつて行ふ会員交流会では、入会の浅い会員が中心となり事業を行い、その会員が成長すると共に、経験のある会員と事業を通し交流し、会員間のつながりを強化することができました。

地域の皆様を招いた広報交流事業では、会員と市民が由比ヶ浜海岸にて、皆が平和に暮らせる鎌倉の未来を想像してオリジナル灯籠づくりを行い、多くの灯籠を並べました。本事業は、体験型交流という手法を用いて、市民の皆様に当会議所を理解していただき、より連携強化に寄与でき、まちづくり活動の一助になりました。

当委員会の取り組みにより、当会議所と地域の皆様との連携を強化し、「明るい豊かな社会の実現」のための当会議所運動に寄与できたと確信いたします。また当委員会の取り組みに会員が真の社会人を自覚することにも繋がったものと思います。当委員会の活動にご参加ご協力をいただきました全ての皆様に深く感謝を申し上げ、事業報告とさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

# 総務渉外委員会

- 担当専務理事名：今村 広太郎
- 委員長名：波多江 悠
- 副委員長名：村山 大輔
- 委員名：磯野 享史、魚住 智哉、岡田 卓、奥西 希生、柿崎 孝宏、脇本 遼、  
三橋 肇、中村 太一
- 作成者名：村山 大輔

## 1) 事業報告

### (I) 会議の開催及び青年会議所運営全般

- (a) 内容：総会並びに理事会の開催、青年会議所の運営
- (b) 時期：2018年 1月～12月
- (c) 結果：理事会 スケジュール通りに、定足数を満たし開催いたしました。  
109回総会 出席22名 委任状10通  
110回臨時総会 出席23名 委任状9通  
111回臨時総会 出席26名 委任状6通

### (II) 交流会の開催

- (a) 内容：新年式典・賀詞交歓会、次年度理事長を祝う会、卒業生を送る会の開催
- (b) 時期：2018年1月、7月、12月
- (c) 結果：  
新年式典・賀詞交歓会 会員31名、OB38名、来賓29名、来訪JC49名、ゲスト参加 6名  
次年度理事長を祝う会 会員24名、OB16名  
卒業生を送る会の開催 会員29名、OB11名

### (III) 渉外に関する事業

- (a) 内容：神奈川ブロック大会大和大会への参加
- (b) 時期：2018年 9月 9日
- (c) 結果：会員24名、OB6名

### (IV) 渉外に関する事業

- (a) 内容：公益社団法人日本青年会議所本会、関東地区協議会並びに神奈川ブロック協議会の事業への参加、出向者支援
- (b) 時期：2018年 1月～12月
- (c) 結果：年間を通じて、参加を促進し、出向を支援することができました。

## 2) 委員会報告

2018年度総務渉外委員会では、当会議所の方向性を力強く共有し繋いでいく機会を創出するとと

もに、会員同士がそれぞれの観点から議論を重ねて目的に沿った事業を展開できるように下支えする強固な組織運営をすることが、明るい豊かな社会の実現に向けて活動する当会議所の根幹を支える一助になると考え、一年間活動しました。

会議の開催及び青年会議所運営全般では、重要な意思決定機関である総会及び理事会に会員の積極的な参加を促し、会議運営手法の浸透させることによって、円滑な会務運営を行いました。次に、交流会の開催では、当会議所の歴史と伝統を形作っていただいた先輩諸氏、関係諸団体の皆さまとの交流を図りました。その関りの中から会員が地域社会の中で果たすべき役割について学び、当会議所の方向性を強く共有いたしました。渉外に関する事業の一つとして、神奈川ブロック大会大和大会への参加を行い、LOM単体では経験しがたいスケールの大きな事業とLOMの垣根を超えた多くの人との交流を体験し、次年度神奈川ブロック協議会会長輩出LOMである当会議所の一員であるという会員の誇りと、会員同士の結束に繋げてまいりました。もう一つの渉外に関する事業として、公益社団法人日本青年会議所本会、関東地区協議会並びに神奈川ブロック協議会の事業への積極的な参加を促すと共に、出向する会員が修練の場において研鑽を積めるように支援することで、より強い会員同士の結束に繋げてまいりました。

当委員会の活動によって、会員が互いに団結し当会議所の目的を強く共有し、仲間を思いながら、まちの未来を想う活動を継続することにより、今年度当会議所のテーマである「真の社会人となろう」の実現に近づくことができたと考えております。

最後になりますが、副委員長という役を任せて下さった樋渡理事長。きめ細やかなご指導をいただきました今村専務、より良い事業構築のために様々なご意見をくださいました正副役員と監事のみなさま、そして、日々の委員会の運営を支えていただき、率先して協力して下さった委員会メンバーの皆様、そして鎌倉青年会議所のメンバー皆様に深く御礼を申し上げ、委員会報告とさせていただきます。1年間本当にありがとうございました。

## 副理事長報告 日向 智則

本年は、会員拡大委員会と広報交流委員会の担当副理事長として1年間を過ごさせていただきました。会員拡大委員会においては、米澤委員長・松永副委員長と共に1年間拡大活動を行ってまいりました。4月例会「渡辺元智氏講演会」拡大リストを充実させることが出来ました。6月例会「3 LOM合同例会」ではバブルサッカーを行い近隣LOMとの交流を図りました。10月例会「私達が考える鎌倉はこうだ！！」この例会に今までのゲストをお呼びして、意見交換を致しました。理事長にもパネラーとして出席して頂き意見交換をして頂きました。広報交流委員会においては、二見委員長・長野副委員長と共に1年間を過ごさせていただきました。3月例会「メモリアルデー」では野球をモチーフにした設えで先輩諸氏の皆様と交流を深めるとともに、当会議所の53回目の創立記念日をお祝い致しました。8月例会「未来を灯そう！オリジナル灯籠づくり」では地域の皆様と一緒に灯籠を作成し、交流を致しました。作成した灯籠と一緒に写真を撮ることで一体感が出たと思います。そして広報交流委員会はヤングメン事業といたしました入会年数の浅いメンバーを中心に2回の事業を行いました。6月「すぐに役立つJCマナー講座」11月「クイズで学ぶ！鎌倉そなえ発見！防災編」自分自身を見つめなおすとともに、改めてマナーや防災に関して勉強させていただきました。会員拡大委員会・広報交流委員会と各例会や委員会メンバーと共にやる事で、本年度理事長が掲げます「真の社会人となろう」というテーマに沿った活動が出来たと確信しております。副理事長という貴重な経験をさせていただきました樋渡理事長、それを支えてくださった両委員会の委員長・副委員長をはじめメンバーの皆様に感謝を申し上げ副理事長報告とさせていただきます。ありがとうございました。